

## 委員会活動報告書

委員長名 播本 雅津子

<b>【委員会名】</b> 国家試験委員会	
<b>【メンバー】</b> 宇田 優子(新潟医療福祉大学)、¥大谷 喜美江(四日市看護医療大学)、齋藤 公彦(福山平成大学)、関 美雪(埼玉県立大学)、望月聡一郎(人間総合科学大学) ◎播本 雅津子(名寄市立大学)、藤田碧(秋田看護福祉大学)  50音順、◎委員長、○副委員長、¥会計担当、*会員校以外の委員、( )所属名	
<b>【活動方針】</b> 1. 毎年の保健師国家試験出題内容に関する意見をとりまとめ、厚生労働省に意見書を提出する。 2. 保健師国家試験の質向上に向けた検討および活動を行う。 3. 国家試験問題作成のための研修会等を実施し、教員の問題作成、クリティーク、ブラッシュアップする力を育成する。	
<b>2023(令和5)年度</b>	
<b>達成目標</b>	1. Web調査による第110回保健師国家試験に係る問題内容調査を会員校の協力を得て、国家試験問題の質向上に寄与する。 2. 養成校別保健師国家試験合格率の推移、問題内容調査結果の分析経過など、国家試験対策の基礎資料を蓄積していく。 3. 厚生労働省Web問題登録への会員校からの問題・情報の登録を推進する。 4. ブロックからの国家試験に関する研修依頼に随時対応する等、会員校教員の問題作成の力量アップを図る。
<b>活動報告</b>	1. 第110回保健師国家試験の出題内容に関する会員校調査を実施した。110校(46.0%)の会員校から多数の意見が参集した。参加校は、第109回88校(37.9%)から増加し、第107回103校(47%)、第108回114校(49.7%)とほぼ同水準となった。分析結果は厚生労働省医政局看護課に意見書として提出した(2月)。会員校にはこの意見書および会員校から寄せられた意見を集約した文書を全保教HPに掲載して周知を図った。 2. 第110回保健師国家試験環境調査を実施した。1,027名(昨年度964名)の受験生から回答を得た。調査のまとめを内容調査と同時に厚生労働省に提出し、会員校には全保教HPに掲載して周知を図った。 3. 厚生労働省への国家試験問題のWEB投稿に取り組み、委員会から27件(昨年度13件)の問題の投稿を行った。今年度実施した作問に関する研修会の受講者も作問に取り組み、研修会実施の意義が確認できた。今年度は2件の研修依頼があった。1件は国家試験委員が自校および同じ県内の養成校に呼びかけて行い、1件は北海道、東北ブロックの北海道地区の企画によるものであった。作問件数は、日々の授業等での試験作成に役立つとの声があった。 4. 委員会は5回延べ11日開催した。うち1回は対面開催、1回はハイブリッド開催、3回はZoom開催であった。内容調査の検討およびWEB投稿への取り組みではそれぞれ3日間に渡っての開催であった。